

## 2022年度 大学入学共通テスト 国語 現代文(本試験) 分析

試験時間 80 分

難易度	出題分量	出題傾向
全体としては昨年と比べてやや難化した。第1問(評論)は昨年並み、と第2問(小説)はやや難化した。	第1問、第2問は文章がやや短くなった。設問数は第1問で1減、第2問で1増、解答数は2減。	第1問の二つの文章を関連付ける問題や、第2問の俳句を通じて小説を解釈する問題が新傾向。
<p><b>総評</b></p> <p>共通テスト2年目にして、旧センター試験と異なる独自性が顕著になった。第1問の評論では、同一テーマの異なる文章を比較することが求められた。形式は目新しいが文章自体は平易であり、全体としては昨年並みの難易度だと言える。また、第2問では、昨年の第1問で出題されたノートまとめの問題が出題されたが、俳句と関連付けて小説を理解することが求められた。こうした新傾向にとまどった受験生も多かったのではないか。その意味で昨年度と比較してやや難化したと言える。</p>		

### 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	近代以降の文章(評論)	50点	<p>問1では新形式の出題が見られた。例年は同じ漢字を用いる言葉を選ぶ問題が5問出題されていたが、今年度は3問に減少し、代わりに漢字の意味を問う問題が出題された。難易度は低いが、形式の変化に驚いた受験生もいるかもしれない。</p> <p>問2、3、4は通常の傍線部説明問題である。傍線部の前後の文脈をていねいに分析したうえで解答根拠を把握できれば、正解するのは難しくない。</p> <p>問5は表現効果に関する問題である。旧センター試験では小説で出題されてきたが、今年度は評論で出題された。紛らわしい選択肢が多く、やや解きにくいかもしれない。</p> <p>問6は二つの文章をまとめたメモの空欄を埋める問題である。(i)では両者の相違点を考える問題が、(ii)では両者をまとめる問題が出題された。文章全体の理解が問われる。</p>

第2問	近代以降の文章 (小説)	50点	<p>例年問1で出題されていた、語句の意味の問題がなくなった。</p> <p>問1、2、3は通常的心情説明問題である。また、問4は表現に着目する問題であるが、表現の理解が求められるというよりは、それぞれの場面での「私」の心情を答える問題となっている。いずれも指定箇所の前後から「私」の心情を表す言葉や動作を発見すれば正解できる。</p> <p>問5のノートまとめ問題は、昨年の第1問に引き続き出題された。しかし、今年度はノートの中に俳句が3編引用されており、これまでにない形式の出題となっている。この形式に面食らって焦ってしまう受験生が多かっただろう。また、(i)が(ii)のヒントになっているのだが、そのことに気づかずに(ii)で迷ってしまった受験生もいたはずだ。逆に、形式に惑わされず、複数の文章を組み合わせて考えるという昨年までの出題傾向の延長だと考えて取り組めた受験生は正解できる可能性が高いのではないか。</p>
-----	-----------------	-----	---

### 次年度以降の受験生へのワンポイントアドバイス

傍線部の前後を読めば答えが決まるような問題ばかりを解いていては、共通テストには太刀打ちできない。第1問の問6や第2問の問5のように、文章の全体構造を把握する学習が欠かせない。また、第1問のような複数の文章を関連付ける問題は、普通の問題集を解いているだけでは対応できない。こういう力をつけるための教材として最も優れているのが学校の教科書である。学校の授業では文章の全体構造の把握を取り上げるだろう。また、発展的内容として教科書で複数の文章の比較が取り上げられているはずである。そういう意味で学校での学習を重視するべきである。

一方で、知識事項の習得も欠かせない。基本的な漢字や言葉の知識は共通テスト対策として必須である。知らない言葉に出会ったらまめに辞書を引いて言葉の知識を増やすことが大切である。